スノーミックスフラワーの育て方

雪印種苗㈱　中央研究農場

入山　義久

1　ミックスフラワーとは

海外においては，栽培の簡単な野生の草花のミックス（ワイルドフラワー）が利用されていますが，日本では，これらの栽培の簡単な野草に園芸用草花を加えて，種子によって手軽に栽培ができ，ある程度のやせ地，粗放的な管理にも耐えて，比較的簡単に美しい花が鑑賞できる草花（ミックスフラワー）として普及しています。

単一の草花を用いた緑化では，一面に咲き誇る圧倒的な景観を楽しむことができますが，ミックスフラワーを用いた緑化では，様々な草花が同時に開花し，また，季節ごとに次々と草花が移り変わる変化のある景観を楽しむことができます。

ミックスフラワーは一般家庭の庭先，酪農家の牛舎回わりをはじめとして，工場周辺や道路法面，荒れ地などの環境美化を目的とした場面，高速道路のパーキングエリア，公園などの憩いの場所を提供する場面で利用されています。コストや管理作業の手間が比較的少なくて済むスノーミックスフラワーは栽培する場所を選ばず，手軽な緑化に適していると言えるでしょう。

2　スノーミックスフラワー各タイプの紹介

ミックスフラワーにより緑化する場所の使用目的，管理程度，気候に応じて，使用する花の種類や播種時期などが当然異なってきます。特に北海道及び府県の高冷地において栽培する場合は，草花の生育にとって最適な生育の期間が限られているために，府県の一般地域で栽培されている草花と同じものが，同じ方法で栽培できるとは限りません。そこで弊社では，北海道向けに5タイプ，府県・一般地域向けに11タイプ，府県・西日本地域向けに4タイプを販売しています（**表1**）。

北海道におけるミックスフラワーの播種時期は5月下旬までが一般的ですが，6月中旬までは播種が可能です。しかしながら，あまり遅くに播種を行うと生育期間が足らずに開花できないことがあります。開花期間は5月の上旬に播種をします

表1　スノーミックスフラワー各タイプ

		北海道向け	府県向け	
			一般地域用	西日本地域用
長期利用	1年草＋多年草ミックス	スノーレインボー（オールラウンド） レインボーカーペット　（矮性）	トール　（春秋播き別） ロアー　（〃） ハイランド　（寒高冷地） ポピュラー　（経済的） カーペット　（矮性）	緑化・植生用　（タイプ1） 緑化・植生用　（タイプ2） ポピュラー ハイランド
短期利用	1年草ミックス	エレガンス　（高性） ファンタジー　（矮性） スーパーグラデーション（コスモス）	春物語（秋播き、3タイプ） 夏物語（春播き、2タイプ） コスモス物語　（3タイプ）	
家庭用小袋			酪農家向け小袋、ガーデン用小袋	

と6月下旬から10月下旬まで次々と色とりどりの美しい草花を楽しむことができます。

府県におけるミックスフラワーの標準的な播種時期は春まきが4～6月，秋まきが9～10月です。

3　播種のポイント

ミックスフラワーの栽培はとても簡単であり，あまり手間をかけなくても美しい花を咲かせることができます。**図1**に示すような順に作業を行います。

ここでは，ミックスフラワーを簡単に，そしてより美しく栽培するための基本的な播種方法を紹介いたします。

1)　基盤の整備

播種床を耕し，雑草を取り除き，均一に整地します。雑草を抑えることは草花が順調に生育・開花するための最も重要なポイントです。耕起後しばらく期間をおいて，表層に含まれる雑草をすべて発芽させてから，ラウンドアップ等の除草剤を散布して除草しておくと草花の生育期間中の雑草の発生が少なくなり，管理の手間を省くことができます。播種前にできるだけ雑草を取り除いておきましょう。

畑地等の肥沃な状態では，状況により基肥として化成肥料を㎡当たり40g程度を施肥します。窒素の多肥を避け，緩効性の肥料を用いると効果が持続します。

2)　種子の播種

ミックスフラワーを播種する場合の播種量は標準的には1～2g／㎡が適当です。コスモススーパーグラデーションについては，1dℓ／25㎡(約1.5g／㎡）の播種量が適当です。

種子は種子量の10倍程度の乾いた土とよく混合して播種を行うと片寄りが少なく，均一に播種することができます。また，全体を一度に播種せず，種子を均等に2つに分けて，縦と横とに2度に分けて播種を行うと種子が片寄らないように播種することができます。播種した後は土を薄くかけ，鎮圧をします。

播種方法は発芽後に発生した雑草を取りやすい“帯状播”にすると，発芽後の除草作業がやりやすいようになります。30～60cm程度の幅で，人の通れる通路と播種床を交互に作っておき，除草などの作業は通路に入って行います（**図2**）。

他に，30～60cmの間隔をとってすじ状に播種する方法も雑草管理がしやすい播種法です(**写真1**)。

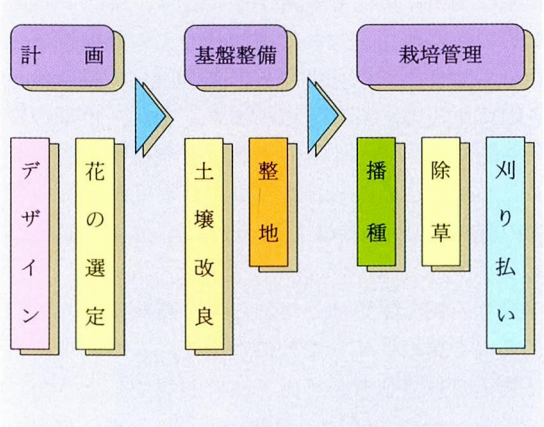

図1　美しい草花づくりの栽培管理

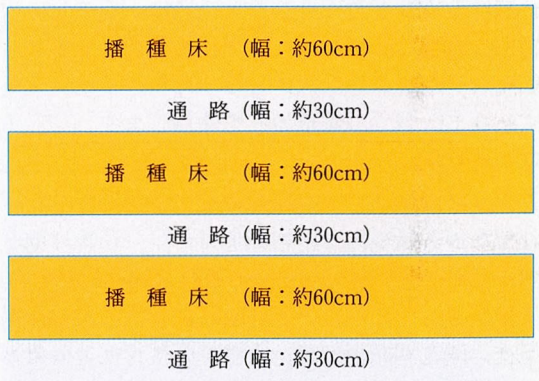

図2　発芽後の発生雑草を取りやすい帯状播の例
（人の通れる程度の幅の通路と播種床を交互に作り、除草などの作業は通路に入って行う）

写真1　すじ播きによる播種

この場合，すじの間から発生する雑草を手で除草したり，刈り払い機で刈り飛ばすなどの方法で除草します。

3) 発芽と散水

発芽～初期生育には水分不足の影響を受けるので，特にこの時期には注意を要します。発芽が揃うまでは土の表面を乾燥させないように散水を行いますが，この時，散水によって種子が流されないように注意して下さい。花を良好に咲かせたい場合はなるべく乾燥状態にしないことがポイントです。

4 管理のポイント

1) 除草

できるだけ雑草の数を減らすことが美しい景観を作るための重要なポイントになります。ミックスフラワーを播種した後に雑草が草花の初期生育を妨げることが考えられるときには，雑草発生の初期の段階で除草を行います。その後，ミックスフラワーがある程度大きくなったら，草花より草丈が高く，目立つ雑草のみを除草します。

2) 刈り払い

ミックスフラワーの開花のピークが過ぎ，こぼれ種が落ち始めたら，枯れて見苦しい花殻を取り除くために刈り高 15～20 cm 程度に刈り払います。景観がきれいになるのと同時に，こぼれ種の発芽促進，開花期間の延長，宿根草の生育促進効果もあります。

3) 追播と更新

1年草ミックス以外の各タイプでは2～3年間は草花を楽しむことができますが，天候，土壌条件などにより，草花の種類や花の色に片寄りが見られた場合，2～3年目に追播を行うか，更新を行います（**写真2**）。

写真2　草種に片寄りが見られる

5 おわりに

ミックスフラワーを栽培する人の多くは開花した草花は美しいが，やはり雑草の侵入による景観の悪化とその除草に手間がかかることが欠点と考えているようです。ミックスフラワーを栽培するためには，その管理にどの程度の手をかけるかによって，ワイルドタイプとガーデンタイプに分類することができます（**表2**）。

表2　ミックスフラワーの管理方法による分類

分　類	管　理　方　法
ワイルドタイプ	・遠景で見ることが主体。 ・自然状態で管理することが基本 →生育の段階で、雑草が著しく繁茂して、草花の生育が阻害されるか、景観を著しく損なってしまう場合のみ除草を行う。
ガーデンタイプ	・中景、近景で見ることが主体。 ・肥培管理、除草を行うことが基本 →美観の面から適宜、除草、刈り払い、追肥等の管理作業を行う。

このように，開花した時点での景観をどの程度求めるか，また，遠景で観賞するのか近景で観賞するのかにもよって，管理の程度も変化します。どうしても除草を行う機会がなく，雑草の発生が旺盛な場所に草花を栽培する場合は，あらかじめ草丈の高い草花を選んで播種して丈の低い雑草を隠してしまい，草花より丈の高い目立つ雑草のみを除草する方法も考えられます。また，雑草の侵入を防ぐ意味で，イネ科の芝草を混播する方法もあります。この場合は草花の生育を抑制しない程度の混播量（イネ科は 2 g／m²程度）にする必要があります。

雑草の完全除草にこだわらず，雑草や他の植物とうまく調和させることによって，より管理の楽な草花の栽培を考えてみてはいかがでしょうか。